

10  
vol.152

広報 縄文村だより vol.152 (10月号)

# Jomon Times



平成30年10月1日  
●編集・発行●  
奥松島縄文村歴史資料館  
東松島市宮戸字里81-18  
TEL 88-3927 FAX 88-3928



## 「里浜貝塚」のここがスゴイ!! 大特集。

### トゴイノ 1 日本最大級の大きさ!

里浜貝塚の特徴はその大きさ。東・西・北貝塚の3つの貝塚群を合わせると、東西約640m、南北約200mで、集落に伴う貝塚としては日本最大級の規模を誇ります。貝層も“ぶ厚く”、7mも堆積しているところもあります。スゴさはその大きさだけではなく、縄文時代前期から約5千年も里浜に暮らし続けた縄文人たちの営みが、貝塚の中にしっかりと残されているのです!  
なぜ、里浜に縄文人が長い年月暮らし続けることができたのでしょうか?それはムラをとりまく海と森の環境がほとんど変わらなかったから。これは松島湾に注ぐ大きな河川がなかったため、松島湾沿岸に大きな貝塚が多く残された理由です。弥生時代までずっと海だった矢本周辺に縄文の遺跡がないのとは対照的です。里浜には内湾と外洋の生態系の異なる2つの海があり、里山もあり、自然の恵みがとくに豊かだったと考えられます。

### トゴイノ 2 画期的な発掘方法!

大正7年。東北帝国大学によって、本格的な学術調査が始まりました。狭い調査区の中から埋葬された縄文人骨が14体も発見されて、全国的に注

目を集めました。画期的だったのがその調査方法。「層位的発掘」といって、積み重なった貝塚の層を分けて上から順番に掘り上げていったのです。現代の私たちの発掘では基本中の基本で、発掘の鉄則なのですが、100年前の里浜で初めて実践されました。その結果、層の新旧によって土器の移り変わりも明らかにすることができたのです。  
里浜発掘以前は、各地の遺跡から発掘された土器の特徴の違いは、それを使った民族や人種の違いと考えられていたのですが、年代の違いであることを科学的に証明し、その後の土器研究に大きな影響を与えました。

### トゴイノ 3 縄文人の暮らしを解明!

里浜貝塚の発掘は、その後も多くの研究者や研究機関によって続けられました。戦後の東北大学教育学部・宮戸島遺跡調査会の調査では土器の編年やムラの変遷を明らかにし、昭和54年からの東北歴史資料館(現在の東北歴史博物館)の調査では、縄文人の生業と食生活、製塩活動の実態を解明するなど、常に貝塚研究の先駆的な役割を果たしてきました。  
現在も、里浜貝塚の発掘は続いています。これまでの調査面積は全体の1~2%ほど。今後も里浜貝塚から、縄文村から「縄文」を発信し続けていきます。

今から100年前の大正7年10月28日。東北帝国大学の松本彦七郎、長谷部言人ら少壮気鋭の研究者によって、宮戸島の「里浜貝塚」の学術的な発掘調査が始まりました。  
100周年を記念し、里浜貝塚の特別展、講演会、シンポジウムなどを開催します。

## 里浜貝塚 発掘100年



松本彦七郎博士

### 発掘100年企画

#### ■特別展「里浜貝塚が明らかにした縄文時代」

〈開催期間〉2018年11月17日(土)~2019年1月20日(日)  
〈会場〉奥松島縄文村歴史資料館  
〈協力〉東北歴史博物館・東北大学総合学術博物館

#### ■記念シンポジウム「貝塚を掘る!一貝塚が解き明かす縄文の社会」

〈開催日〉2018年11月18日(日)13:15~16:30  
〈会場〉野蒜市民センター 定員100名、無料  
〈講師〉阿部芳郎氏(明治大学教授)、  
會田容弘氏(郡山女子短期大学部教授)、  
菅原弘樹(奥松島縄文村歴史資料館館長)

#### ■記念講演会「奥松島宮戸の縄文生活

—特別名勝 松島と史跡里浜貝塚—  
〈開催日〉2018年11月23日(金・祝)15:00~16:30  
〈会場〉奥松島縄文村歴史資料館・シアター 定員60名、無料  
〈講師〉岡村道雄名誉館長

## 奥松島縄文村まつり 10/21(日) 10:00~15:00

秋の一大イベント!縄文村の「いとこどり」ができちゃうおまつりです♪

### JOMON

- \*縄文体験 / 無料
- \*縄文写真館 / 無料
- \*火おこしNo.1 決定戦! / 無料
- \*縄文カキ剥き競争 / 300円
- \*さかなつりゲーム(小学生以下限定)/100円
- \*里浜貝塚ガイド&クイズラリー / 無料
- \*縄文キッチン / 試食無料

### SPECIAL!

#### ゴスペルコンサート

石巻で活動するゴスペルグループ「IKG石巻きぼうゴスペルクワイア」さんによるコンサート開催♪

### Market

- \*東松島旬の市
- \*フリーマーケット

※内容は変更になる場合がございます。  
※雨天時の場合は規模を縮小します。

詳しいスケジュールは、縄文村ホームページ・フェイスブック、または市内に配布・掲示されているポスター、チラシをご覧ください!



おまつりしてまーす!

### フリマ出店者募集!

ただいま、10/21のおまつりでフリーマーケットに出店していただける方を募集中です。日用品や服、手作りの作品などを持ち寄って、お店を開きませんか?

- <参加費> 無料
- <ブース> 3×4m ひとり1ブースまで
- ※芝生開催のため、雨天時中止します。
- <お申込> 0225-88-3927(水曜休館)
- ※定員15ブースになり次第メチ



## トップランナーがSDGsを語る! 持続可能なまちづくりへ

東松島市 渥美巖市長



国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取組を推進していくために、政府は優れた取り組みを提案した全国29自治体を「SDGs未来都市」に選定。宮城県からは唯一、東松島市が選ばれ、安倍晋三内閣総理大臣から渥美巖市長に選定証が手渡されました。

東松島市では、今後、各省庁の支援施策などを活用し、教育、エネルギー、生涯現役、経済循環、市民協働を中心に「持続可能なまちづくり」を目指し、知名度アップにもつなげていく考えです。

ここでは、市の行財政界を牽引するトップランナーの方々のインタビューを掲載。「SDGs」に対しての期待感や、持続可能なまちづくりへの思いを語っていただきます。

第1回目は、市行政のトップである渥美巖市長に「SDGs」を語っていただきました。

■問 SDGs未来都市推進室  
☎内線1249

### ◎市長が考える持続可能なまちとは。

▲必要なことは多岐に渡りますが、人口をこのままの水準で維持する

ために、働く場の創出と働きやすい環境を作ること、子育てしやすい環境を整え、子どもたちの学力向上にもつなげていくことなども必要です。また基幹産業の農漁業の発展、高齢者が生涯現役で健康を保持できる体制作り、宮城オルレなどを活用した地域活性化、防災対策などが持続可能なまちづくりには大切でしょう。

◎安倍晋三首相から直々に認定書を手渡され、SDGs未来都市に選定されましたが、どのように捉えていますか。

▲東松島市は東日本大震災の被災3県の中から唯一選ばれた自治体です。安倍首相も地方創生のモデルとして頑張ってもらいたいという期待感を持っていただいているのだと思います。

◎SDGs未来都市計画では、子ども、若者、高齢者の人材育成をテーマにしています。それぞれの世代に対するメッセージをお願いします。

▲子どもたちには、それぞれに抱えている夢に向かって努力を重ねてほしいです。若い世代のみなさんには、とにかく地域を愛していただき、自分たちが次の世代、ふるさとを担っていくんだという自覚と誇りを持ってほしいです。また高齢者のみなさんには、健康寿命の延伸に努めていただき、いつまでも生涯現役で、地域のために培ったスキルなどを発揮してほしいです。

◎SDGsには計17のゴールが定められており、自治体では住み続けられるまちづくり(11番)は重要ですが、それ以外に市長が重視するゴールを3つ教えてください。

▲まず働く場がしっかりとあること(8番)、子育て支援(3番)、農林水産業の発展(2番)は欠かせないと思います。17のゴールすべてが行政に関係するので、すべてに力を入れ、29自治体と比較してもすべて上位にランクインできるようにしたいですね。

インタビューの全文は、 [東松島市 SDGs](#) [検索](#)

### インタビュー